



新年を迎えて

網野定三*

新年あけましておめでとうございます。

年頭に当り、皆様方の益々のご活躍と、当会の更なる発展を心から祈念申し上げます。

昨年マニフェスト選挙と言われた衆議院選挙も終り、新たに第2次小泉内閣が発足しました。

内外ともに様々な難題を抱えての厳しい船出となりましたが、本年はこれら公約の実現が厳しく問われる重要な年となります。幸い長期に低迷していた日本経済にも、ようやく景況感も出て明るい兆しが見え始めており、本年こそデフレから脱却し持続的成長の足固めの年になることが期待されます。

一方世界の情勢は、イラク戦争がその後もテロで泥沼化しており、また予期せぬ原因不明のSARSと異常気象による大規模災害が世界的に広がるなど、国際社会は不安や危機感で一層混迷を深めました。

特にイラク問題では大国の思惑もからみ、国連の機能さえ麻痺するなど大きな失望を与えましたが、世界の水問題や地球温暖化問題等の世界が抱える重要な課題には、今後とも国際社会の強い連携と強調が重要な鍵であります。

さて、ICOLD第71回年次例会と第21回大会が、カナダのモントリオール市で開催され、SARS騒ぎの渦中でありましたが、予定通り実施されたことは何よりでありました。

今次総会では、最大の関心事であった総裁選挙が行われ、新たにブラジル大ダム会議会長のC.B. Viotti氏が次期総裁に選任されました。また、副総裁選挙も同時に行われたが、いずれも決戦投票となり僅差で決まるなど一票の重みを感じた選挙となりました。

ICOLDは現在約80ヶ国で構成されているが、会員各国の国情の違いや、ICOLDの運営や活動に対する思いなども様々であり、最近ではWCDレポートの対応でも、開発優先の途上国と環境重視の先進国ではその違いが相当鮮明になってきています。今回の選挙ではこれら組織の複雑な現状が票に表れ、今後のICOLDの在り方などが問われているように思われました。改めて新総裁のリーダーシップが期待されます。

* (社)日本大ダム会議 会長 (開発工事(株) 顧問)

世界のダム事情は、依然ダムへの批判が強いものの、最近の国際会議や一部の国、地域レベルなどで対話の動きがみられ注目されます。

京都その他で開催された第3回世界水フォーラムでは、イラク開戦が報じられる中、予想をはるかに超える参加があり、様々な分野で熱い議論が繰り広げられました。特にダム関連では、ICOLD本部からも Varma 総裁をはじめ多くの幹部が参加し、世界のダム事情やその重要性などを訴え、また NGO 等の反論にも誠実に対応するなど、大変評価されるものでありました。ダム建設の是非をめぐっては全く意見がかみ合わなかったものの、各国政府をはじめ、国際機関、NGO 等の関係者が一同に会し、整然と議論が交わされたことは、対話への一歩でありその意義は大きかったと思われます。ICOLD は今後も引続き、他機関等との連携を強めるなどダムへの理解が得られる努力が求められ、同時に本会議を主催した日本の役割と責任は今後も重いと思われます。

当会は、日本がかって短期間で先進国へ仲間入りした経験から、各国の事情が理解できる国として、これ迄も ICOLD の活動に協力し、かつ評価を受けてきました。今後も組織の現状を踏まえた新たな役割が求められます。

昨年これ迄の日韓定期交流に中国を加え、近隣3国による定期交流にほぼ合意しました。これらは ICOLD の活動方針である「地域ブロックの活性化」に添うものであり、今後はこれら3国の強い連携により、アジア全体の交流に拡大し、アジアが抱える様々な課題に取り組むことが出来れば、その意義は大きいと思われます。既に本年5月開催されるソウル年次例会に合せ、気候変動、洪水等をテーマにした第1回アジア特別セッションが予定されており、アジア各国からも多数の参加が予想され、その成果が期待されます。

我が国のダム事業は、将来的には気象変動等により自然災害や水不足が増大することも予測されているが、現状では新規開発が漸次減少し、既存設備の維持管理が主体となる時代を迎えています。したがって今後は、これら既設備の効率的な運用、改善等により、流域全体の治水、利水、環境等の多様な課題を総合的に管理し、持続的な水利用システムを構築することが最大の目標であります。実現に当っては様々な課題もあり、多様な施策や新技術の導入など創意工夫が求められ、これらはまたダム技術者の今後の重要な役割となります。

我が国でも、ダムへの批判は続いており、これらの議論さえ忌避する気風があるが、ダムを含めたこれらの設備は、現在社会のみならず、後世に引継がれる最も重要なインフラであることを、ダム技術者自らが再認識し、使命と気概を持って取り組んでいきたいものであります。

当会は本年も、これら時代のニーズに適格に対応し、その課題を明確にするとともに、内外の期待に応えていきたいと願っております。

そのためには、当会自らの活性化が最優先課題であります。新年に当り改めて会員各位の一層のご理解、積極的な活動への参加とご協力を、切にお願い申し上げ、新年のご挨拶と致します。